易者の哲理

萩原朔太郎

青空文庫

すべての易者たちは、彼の神秘な筮竹を探りながら、威嚇するやうな調子で言ふ。人間の一生は、天に於ける九星の宿位によつて、生れた最初の日から死ぬ時まで、必然に避けがたく予定されてる。それ故に我々は、星占学の記入された簿記を調べて、君の生涯の第一頁から、奥付の終頁までを、確実に誤りなく、読むことができるのであると。

此処までの思想で見れば、易者の哲理は決定論に類属して居た。それは科学の宇宙観や、唯物主義の人生観と同じく、すべての現象を、それの生ずる前提条件の因果にたづね、偶然のない宇宙——宿命的、数学的に決定された人生——を説明して居るのである。けれども若しさうだつたら、何人も決して易者の占筮を乞はないだらう。何故といつて我々の運命は、易者の言ふ如く、過去にも、現在にも、未来にも、必然的に避けがたく決定されてる。丁度日影に蒔かれた貧弱の瓜の種から、一つの貧弱の苗が生え、蔓が伸び、やがて貧弱の実が成るやうに、人間の生涯もまた、最初の種と原因とに、すべての発展する将来の結果を内因して居る。瓜がいくら熱心に願つたところで、その他の何物にもなり得る筈がなく、星占学の簿記に書かれた人間の一生は、どんなインキ消を使用しても、断じて消すことも変へることも出来ないのである。

さてそれならば、易者がどうして人の運命を自由に変化し、未来の幸福を指示することができようか。易者に聞いても聞かないでも、予定された未来の不幸は、必ず避けがたくやつて来る。さうして若しさうだとすれば、人は未来の運命から眼を閉ぢ、故意に知るまいとして努めるだらう。どんな物好きの死刑囚も、自分の刑の執行日をわざわざ看守に尋ねはしない。すべての人々は、未来を予知できない故に生きながらへてる。だれがわざわざ、自殺するために易者の店を訪ふだらうか。逆に却つて人々は、星占学の辻占から、未来の漠然たる幸福——幸福があるだらうといふ運命の予約——を期待して居る。そしてまた（皮肉なことには）いやしくも易者を訪ふほどのすべての人は、過去にも現在にも不運であり、それ故にまた将来の幸運さへも、概して予想できないところの人々である。

すべての易者と星占家（家相家や、人相見や、八卦師や）は、かうした彼等の所謂亡者どもを済度するため、矛盾にも此処で前説を豹変し、逆に今度は、意志の自由が運命を支配すること、自覚と心がけとによつて、何人も意識的に人相を変へ、悪しき手相を善き手相にし、自由に運命を支配し得ることを弁解する。かくも辻ツマの合はない非論理を、彼等は平然として言ふのである。「宿命のプログラムは、星の運行と共に決定されてる。だが人々は、それを予め自覚することによつて、来るべき災難を未然に防ぎ、大厄を小厄にし、幸運のチヤンスを捉へ、すべてに於て将来を賢明に用意し得る」と。それからして演繹し、彼等一流の運命開拓法を説くのである。「君の今度の旅行は、東南に向つて出発なさい。必ず幸運が待つて居り、一挙にして大金が手に這入る。君の過去の不幸は、丑寅の方位に当る南天の樹の祟りであつた。よろしく速かに伐りなさい。必ず運命が一新する」等々。げに易者の哲理ほど、都合よく詭弁されたものはない。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆82　占」作品社
底本の親本：「萩原朔太郎全集　第五巻（補訂版）」筑摩書房
　　1987（昭和62）年2月
入力：土屋隆
校正：noriko saito
2006年9月18日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

易者の哲理

萩原朔太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/